

永井隆 ながい たか 隨筆家。明治四十一年二月二日島根縣松江生れ、昭和二十六年一月五日歿（一九八一五二）。放射線醫學者、醫學博士。昭和七年長崎醫科大學卒。翌年軍醫として支那各地を轉戦。二十一年白血病となり、更に長崎で被爆。翌年長崎醫大教授となるも半年後長崎歸郷ぐ倒れ、爾來病床に臥して原爆體驗、信條等を書き綴じた。

譯著書、ブルース・マーシヤル著『世界と肉體とスミス神父』(ポロダン・モンブエツト共譯、昭和二十二年十一月)、二十五年十一月、『主婦之友社』、
 『この子を残して』(昭和二十二年九月)、二十五年大日本雄辯會講談社、
 再刊『この子を残して』(二十九年十一月)、二十五年東都書房「愛と真実の記録」()、『長崎の鐘』(昭和二十四年一月)、二十五年日比谷出版社)、
 『生命の河』(昭和二十四年四月)、二十五年日比谷出版社)、『花咲く丘』(昭和二十四年八月)、二十五年日比谷出版社)、
 『息子雲の下に生きている』(長崎の子供らの手記』(編、昭和二十四年八月一日大日本雄弁會講談社)、
 『このここの子』(昭和二十四年九月)、二十五年大日本雄弁會講談社)、
 『如口隨筆』(昭和二十六年八月十五日中央出版社)等。
 如口隨筆編『永井博士を憶う』(昭和二十七年四月五日中央出版社)

刊。

